

防災計画のあるべき姿

目黒公郎（東京大学）

防災対策の基本

◆災害対応の循環体系に基づく総合的な災害管理

—被害抑止力、被害軽減力・減災力、予知/予見と早期警報、被害評価、（緊急）災害対応、復旧、復興、災害情報とコミュニケーション、リスク・マネジメントとクライシス・マネジメント

◆ 担い手（自助・共助・公助）とハード・ソフト対策

◆ 防災基本計画～都道府県地域防災計画～市町村地域防災計画の連携

◆ 「金太郎飴」状態の地域防災計画への批判

—「対象地域の災害特性と地域特性を踏まえ、適切な計画を立て、適切な優先順位で実施しなさい」と国や専門家は言うが・・・適切な運用法までの提示で、「金太郎」から独自の物が生まれる—計画の策定までで疲弊している現状（手段の目的化、計画の冊子、専門性と予算の問題）

◆ 防災対策の具体化に際して

—災害イメージングの重要性、—日常と非日常の連続性、—対策実施へのインセンティブ、—効率的な地域防災計画の立案と実施方策

→適切な優先順位付きで防災対策を実施するために

→あるべき姿の防災対策マトリクスとありのままの防災対策マトリクス

→市町村、都道府県、国の地域防災計画の整合性をとるために

防災計画、防災／危機管理マニュアルと災害情報のマネジメント

◆ 現在の防災計画、防災／危機管理マニュアルの問題点

—全体構造として

仕事の流れが見えにくい

仕事の量の議論がなされていない

災害状況（規模、地域、季節、天候、曜日、発生時間など）で変化しない

事前利用の機能が弱い（抑止力、イメージング）

—個別項目として

5W1H（6W2H、具体的なアクションの記述）

代替案の記述

時間別部署別の達成目標の欠如

—個人の経験が組織に遺伝しない仕組み

—お上指導の作成法

—分厚い冊子の計画/マニュアル

◆ 災害情報の共有とマネジメント

◆ 災害情報の視点からの災害対応のトレース（これが適切な災害報道のキー）